

# 有朋

「有朋自遠方来」



有朋会会報第 39 号  
令和 2 年 7 月 1 日



## 一人一人の距離は遠くても、心の距離はさらに近くに

有朋会会長 山田直行

令和、最初のお正月は天気も良く静かに明けました。初日の出がとても美しかった。しかし、今日のような状況を誰が予想したであろうか。

中国で発生した新型コロナウイルスの感染拡大が、世界的規模で進行し、多くの死者を出し、人類は今最大の危機的状況にあります。そんな中、全国の有朋会会員の皆様におかれましては、種々のイベントの延期や中止、個人的行動の自粛制限など、不自由な生活を余儀なくされておられることと推察します。心よりお見舞いを申し上げます。

今年は、会長を仰せつかって2年目です。正月早々から現代社会の状況把握ということで、ダイバーシティ（多様性）やSDGs（持続可能な開発目標）などについて勉強しなければと思っていましたが、前述のような厳しい状況が発生し、「パンデミック」「オーバーシュート」「クラスター」「ソーシャル・ディスタンス」「ロックダウン」などのコロナ関連の横文字の理解に追われ、自分や家族の感染予防のための手洗いや消毒、マスクの着用といったことを優先する毎日です。

有朋会の最近の状況を申し上げますと、今年2月の代表役員会でこれまで懸案の会費の変更が、皆様

のご協力で瑕疵のない手続きを経て承認されました。その審議過程での貴重な数々のご意見を心にとどめ、心して運用いたしたいと思います。また、有朋会80周年の時に建立されました県立美術館（旧師範学校跡）の一角にあります「有朋の碑」の老朽化のための修復工事を計画しております。11月の追悼会までには完成し、皆様にご披露できるかと思っております。

さて、出口の見えないコロナ危機の毎日ですが、朝になれば太陽が昇り新しい1日が始まります。そして時間は知らんふりしても確実に過ぎてゆきます。程よい雨は畑の野菜の成長を促し、麦畑は黄金色に波打っています。夕日は空を茜色に染め、明日への希望を繋ぎます。不自由を強いられている中でも、生きているからこそ感動する心を大切にしたいと思います。健康で人々と出会い、言葉を交わし、教育、文化、社会などについて語り合い、ともに笑うことがどれ程人間にとって本質的な活動であることか。今、命というものの尊さをより深く、より強く感じることができている時間になっているのかもしれない。

「朋有り、遠方より来る、而た楽しからずや」時は流れても先哲先人の教えは朽ちず。



### ふるさとスケッチ

佐賀市の中心街にある由緒ある寺願正寺。毎年4月はじめ、その本堂前の紅枝垂れ桜が見事である。近くで眺めているといつの間にか淡い至福の花衣に包まれる。

明治26年、この願正寺楼門の傍らに「有朋会員死者碑」が建立されました。以来例年秋に、その年に物故された会員のご芳名を過去帳に記載奉納し、当ご住職のご教導により伝統ある「追悼会」が挙行されている。ご来賓並びにご遺族の方々、同期生、各支部代表者、有朋会役員など多数が参列する慰霊の追悼会は、有朋会にとって最も美事で重要な行事である。



願正寺紅枝垂れ桜（佐賀市）

## 会員の皆様より



### 大学で得られたもの

R2年卒 教育学部学校教育課程 吉 永 香 佑

佐賀大学を卒業した今、楽しかったことやつらかったことなど数えきれないほどの思い出があり、そこで学び経験できた4年間だったと振り返っています。その中で、私は人との「つながり」というものに非常に支えられました。ここでは2つ挙げたいと思います。

まず、大学の友人たちとのつながりです。授業や教育実習、部活動ではよきライバル・仲間として高め合うことができました。特に同じ科の友人とは、皆で試験の対策を実施したり、遊びに行ったりとお互いに信頼できる関係を築くことができました。

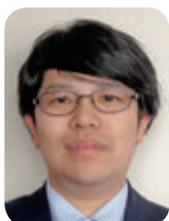
次に、OBの先輩方とのつながりです。私は体育科に所属していたのですが、同窓会では経験のある先輩方から多くのご助言をいただき、進路を決める上で大変参考になりました。また、教員採用試験を受けるにあたって、教養の勉強から面接指導に至るまでいくつものご指導をいただき、当日は十分に準備をして臨み、無事合格できました。

今年度より私は、かねてより志していた佐賀県の小学校教員になり、学生時代に切磋琢磨してきたたくさんの方の友人たちが同期となります。

また、先輩方も現場に多くいらっしゃいます。大学生生活で得られたこれらのつながりを大切にして、教員としての第一歩を踏み出していきたいです。応援よろしくお願いします。



令和元年度 保健体育科卒論発表会 (12.22)



### 縁

H21年院修 佐賀市東部支部 塚 原 篤 史

私は、佐賀大学大学院を修了後、他県で講師などを経験し、現在は佐賀市立勸興小学校に勤務しています。大きな遠回りをしつつも、昨年4月から故郷の佐賀県で、新規採用教職員として働くことができ、ほっとしています。

ふり返ってみると、不安だらけで過ごしたこの一年間も、たくさんの先生方からのバックアップを受けながら、何とか一年を終えることができました。また、教員採用試験の実技会場で話をした先生と4月に再会をしたり、小学一年生の時の担任の先生にお会いしたりと、佐賀で先生になれたからこそ「縁」に恵まれた一年だったように感じます。

実は、私は大きな遠回りをしたことに引け目を感じていました。しかし、児童クラブ指導員をしていた際に出会った、ある保護者からもらった手紙のおかげで、少しですが自分を認めることができましたように感じます。今でも手紙のやりとりをしていますが、その手紙には、毎年児童の成長を感じる事が綴られており、これも一つの「縁」の形なのではないかなと思います。

これからも、いつ、どこで、だれと繋がるか分からない「縁」ですが、一つ一つの「縁」を大切にしていきたいと思っています。

## 中学校教員養成課程英語科専攻に学んで



S63年卒 県立私立支部 副 島 博 孝

1983年（昭和58年）当時の英語科は入学定員5名でしたが、4月に入学した我々は7名（男子5名、女子2名）で、それまで女子学生が多かった英語科にしては異色の学年でした。教えていただいた先生方は、山中猛士先生（英文学）をはじめ守口先生（米文学）、山田雄一郎先生（音声学）、大里文人先生（教育学）、村上晋先生（英文学）、早瀬博範先生（米文学）、外国人講師のスーザン・A・エグルストン先生、マリヨ・フィリップス先生という錚々たる教授陣でした。本当に恵まれた環境で、我々は日々「英語学」「英米文学」「異文化理解」「英語科教育法」等の講義を通して、素晴らしい英語の世界に触れ、自分たちの視野を広げ、教養を高めることができました。

当時の記憶をたどってみると、高校時代に学んだ英語の知識が大学の高度な講義では何の支えになることもなく、毎日授業を受けては自分の知識、能力、教養のなさに打ちひしがれていたのを覚えています。そんな中、前期・後期の試験の時は同期の男子の下宿に集まり一緒に勉強したのも今ではいい思い出です。

英語科でしたが、当時はまだ留学する学生はわずかで、同期の中ではアメリカのボールステイト州立大学に1名行くぐらいでした。同期の坂本康晴先生（現厳木高校長）が1年行きました。私はというと、当時交流のなかったシンガポール国立大学に、「誰か行く人はいませんか？」と山中先生から聞かれ、若気の至りで無謀にも「それでは行ってみます」と即答し、9カ月間国費で行かせていただくことになりました。そのため、残り5名の同級生は一足先に卒業し、坂本と私は一年遅れて高校の英語教師となりました。

私たちが入学した英語科では、山中教授が常々「英語科は卒業生で勝負する！」と言ってらっしゃいました。今振り返って思うのは、「英語科は～」という英語科のモットーは、私たちのような入学生が4年間の英語科での講義を受け、先生方や先輩方と交

流することで、少しずつ学問の奥深さに触れ、英語の魅力に取りつかれるようになり、社会人として中学校や高校、または大学の教壇に立った時、次の時代を担う人々に英語を通して人間教育をしていく基礎作りを、佐賀大学英語科の4年間でやっていくことに対する強い自信の表れだったのだと思います。

佐賀大学英語科の先生方は、我々が卒業して中学校や高校で日々の英語の授業実践に悩んでいるような時や県内の様々な会合やスピーチコンテスト・ディベート大会など各種行事の際も顔を見せられ、常に声をかけてくださいました。特に、早瀬先生にはあらゆる場面でパネラーや講師、また審査委員長など務めていただき、大変お世話になりました。そういう意味で、卒業後も常に支えられ、励まされながら育てていただいたような気がします。

当時お世話になった先生方のうちでずっと佐賀大学に勤められてきた早瀬先生が令和2年3月に退官されました。時の移ろいを楽しみ感じます。それでも、先生方から受け継いだ「佐賀大学教育学部中学校教員養成課程英語科専攻」の一員としてのプライドは、今後も卒業生の一人ひとりを支えていってくれるものと確信しています。

最後に、在学時にマリヨ・フィリップス先生から戴いた言葉を一つ紹介します。

Do the best that you can do!

Be the best that you can be!



昭和58年4月入学式当日英語科集合写真  
（佐賀大学大講義室前にて）



## ピンチこそチャンス

S63年卒 武雄支部 石橋佳樹

令和元年8月28日（金）未明、北部九州を前例のない豪雨が襲った。特別警報が発令され、県内では武雄市及び大町町の浸水被害が甚大で、言葉も出なかった。濁流で尊い命が奪われるとともに、家屋や自家用車等の貴重な財産が一瞬にして自然の猛威の前に押し流されていった。連日の報道を目にするたびに、鉛のようなずっしりとした感覚と、胸を引き裂かれるような息苦しさを覚えたことを今も思い出す。

本校は、28・29日が臨時休校となったものの、住民や児童の命に関わる事故がなかったことが不幸中の幸いであった。

しかし、この災害は私に「当たり前で過ごせる日常の大切さ」を教えてくれた。30日に無事再会した子どもたちには、こんな話をした。

「当たり前に登校できて、みんなと会えて、勉強に打ち込めることが、本当に幸せなことだと思います。しかし、私たちのすぐそばに、傷ついている人

がいる。浸水した自分の家を立て直すために一生懸命がんばっている友だち、避難所で十分な食事や水をとれずに、眠れない夜を過ごしている友だちがいる。そんな友だちに思いをはせながら、『負けるな、がんばれ、大丈夫だよ』と心の中で声援を送り、山西っ子も今日からまたがんばっていこう。」と……。

現在も復興に向けての努力は続いている。その人々の姿を胸に刻み、これからも本校の教育に尽力していきたい。



朝のあいさつ運動



## 鬼は外 ～新型コロナウイルスを退散願う～

S61年卒 唐津支部 濱 隆 朗

突然降ってわいたような災難。新型コロナウイルスの出現により世界は大混乱に陥っている。日々、信じられない二次曲線を描きながら感染者や死者が増加し、今後いつ終息に向かうのか、だれも予想ができない。AIによる今後の予想も過去のデータが蓄積されていない未知のウイルスなので不可能なのだろう。ネット上にもそうした終息に向かう予測は出てこない。

こうした中、首相の突然の思いつきで学校が全国一斉に休校となり、子どもたちは3月の学校での生活を突然奪われてしまった。今回の休校措置は、全国の子どもの学ぶ権利を奪うことをやむなしとするほどの感染予防効果のあることだったのだろうか。なんの根拠も証拠もいまだに示されていない。今後の検証が待たれる大問題だ。それほど子どもたちの学びの機会を奪うことは大変重みのあることだと思う。流行地域とそうではない地域の線引きをし、

専門家の議論を尽くして、それぞれの地域の首長の判断で休校措置に踏み切るべきことだったのではなかったか。

ともあれ、学ぶ機会を奪われた子どもたちは、初めのうちは喜んだかもしれないが、次第に学校が恋しくなってきたように感じる。子どもたちが、学校のありがたさや学ぶことの大切さを感じる機会になったというのは皮肉なことだ。オリンピックも延期になり、いまだ感染が拡大しているこの状況が早く終息して、日常が戻ることを切望している。鬼は外！！



教室内の消毒

## 「今日、この頃」

H24年院修 三養基支部 森 田 大 平



私は、神奈川県横浜市で生まれました。父親の仕事の関係で転勤が多く、転校を繰り返していました。仲良くなったり、恋心を抱いたりした頃にお別れをすることが多く、当時は「転校することになった」と親から言われることがとても受け入れがたかったことを覚えています。小学校は兵庫県の姫路市。中学・高校は熊本県の熊本市と八代市。大学生の頃に佐賀に来ました。転校する度、新しい場所で新しい人間関係を築くために、方言を理解したり話題を共有したりと子どもなりに必死な日々を過ごしました。いつの間にか身に付いたコミュニケーション力によって、たくさんの友人や恩師に恵まれ、思い出に残る子ども時代を過ごすことができたと感じています。

教員として働き出してから、たくさんの素敵な先輩方に出会うことができました。その方々には共通点があり、「自分の趣味の時間を大事にください。趣味を見つけることで、自分自身の人格が豊かにな

るし、その結果、子どもたちと接するときにもプラスになる。」と助言をしていただきました。転校が多く、人や環境に合わせようとしてきたせいか、自分が没頭できるような趣味がない私ですので、今の趣味は趣味探しです。スポーツジム、ツーリング、魚釣り、温泉巡り…。まだまだこれから、自分の人生を豊かにしていきたいと思う今日この頃です。



愛用のバイク

## 働き方改革 ～余暇の創造～

S62年卒 白石支部 桑 原 智 仁



大学からサッカーを始めて37年、今も現役を楽しんでいる。サッカーを続けるためのトレーニングがフルマラソンに発展したり、世界のサッカーを理解するために語学をかじったり、派生して得たものも数多い。選手として、指導者として、審判として、観客として、様々な角度からサッカーに関わり続けることがライフワークとなっている。職場とは違う場所に多くの仲間がいることも財産である。その中でも、指導者として学ばせていただいたことが自分にとって一番の財産である。

「Simple・Quick・To the point!」「世界を基準にして逆算すると…」指導者講習会や指導実践の場で良く使われるキーワードである。機を逃さず、現象を即座に分析し、シンプルに分かりやすく伝える。そういう技術は、何にでも通用する。また、強化と育成の双方の環境を整備するために、組織や仕組みを大幅に変えることなど、目覚ましいスピードで変

化をとげるのがサッカー界である。

働き方改革と言われるが、業務改善は教育現場の最大の課題である。そのためには、方向性を見失わず、やり方を抜本的に見直すことが必要である。そうして生まれた時間でいかに授業を磨くか、余暇時間でいかに人間性や創造性を高めるか、などが求められているのではないだろうか。

こうした問題を解決するためにも、これまでに得られた経験が生かせるのではないかと考えている。



サッカー雄姿



## 感動！～佐賀の空を一つ飛び～

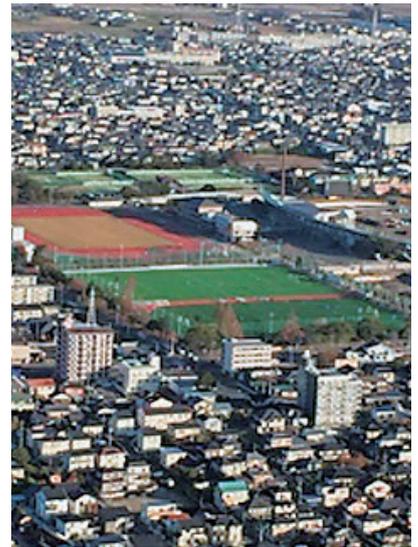
H11年院修 県庁支部 山崎 康隆

秋になると佐賀の空にはバルーンがいっぱいになる。子供の頃から見慣れた光景で、最近では何も思わなくなっていた。そんなとき、バルーンパイロットである知人の誘いを受け、今年は初めてバルーンに搭乗した。

11月の早朝6時は真っ暗で、飛び立つ場所探しから始まった。バルーンを広げることができ、周囲に障害物がない場所を探し金立町から飛び立つことになった。準備は大変で、ゴンドラ、プロパン、球皮は数十キログラム～百キログラム程あった。バルーンの球皮に空気を入れ、熱風を加え、ロープで球皮の頭を引っ張りながらゆっくりと立ち上げた。ゴンドラに乗り込み、パイロットがバーナーを燃やすとバルーンは上昇した。高さによって風の向きが違い、南東方向に進んでいたかと思うと上空では北西方向の風が変わった。上空にいると、下からたくさんの人が手を振ってくれた。ゆめタウン上空から34号線

沿いに西に、そして、南西方向に進んで森林公園北の鍋島までの30分程の飛行であった。佐賀平野は広く、南の雲仙が近くに見え、山手の景色は澄み渡っていた。国民スポーツ大会に向け総合グラウンドは工事が進んでおり、サッカー場の緑がまぶしく美しかった。

上空でのバルーンの穏やかな動き、静けさ、風、景色、どれも幻想的なもので、今までに経験したことがない感動を味わうことができた。関係の皆様方に感謝！



バルーンからの眺望



## 幸福とは

S60年卒 佐賀市北部支部 一番ヶ瀬 徹

長田弘の『最初の質問』という作品の中に、次のような質問があります。「あなたにとって、幸福って何だと思いますか。」

幸福とは何でしょう。朝起きて、朝食を食べて出勤し、職場や地域の人と挨拶を交わす。仕事に取り組む。美味しい食事をいただく。「ただいま。」と言って玄関を開ける。

もっと他にもあると思いますが、幸福は、いつも目に見えない形で、自分の身近にあるような気がします。

全世界が、ウイルス拡大防止で慌ただしく、本当に大変な時期だからこそ、一人一人の幸福について、

冷静に、しっかりと考えたいと思います。



絵本「最初の質問」の表紙より

## 支部便り

### 唐 津 支 部

唐津の有朋会は平成30年2月10日に旧唐津市支部と旧東松浦郡支部が一緒になって、新たに発足しました。2年に一度、本部の事務局から来賓の方を迎えて総会を行っています。

今年度は、令和2年2月8日に唐津市志道公民館にて、本部から山口久美子副会長、竹下敬教事務局長をお迎えし、総会を行いました。参加者は9名にとどまり、大変寂しい総会となりましたが、唐津支部の現状や今後の唐津地区支部のあり方などについて話しました。

現在新たに唐津支部になってから、支部費を集めておりませんでしたので、支部の会計がひっ迫している現状をお伝えし、本部の会費値上げの提案を受けたのち、支部会費を集めるようにしたいという提案を行い、会費の額等については次年度に検討することで会を閉じました。

その後、全学同窓会との合同総会を行い、懇親会を行いました。懇親会には全学同窓会の役員の皆さんが多数参加されましたので、賑やかに旧交を温めました。

(唐津支部長 濱 隆朗)



全学唐津地区会と唐津支部との合同総会

### 神 埼 支 部

令和初の有朋会神埼支部総会並びに懇親会を令和2年2月1日、神埼町「菊水」にて、現役から大先輩の会員の方々、総勢20名が集い、賑やかに開催いたしました。大変有難いことに、山田直行会長、緒方俊昭副会長が、本部からご多用の中においでいただき、会を盛り上げてくださいました。

第一部では総会として今年度の活動状況や会計、物故会員について紹介させていただきました。その後、第二部では懇親会を行い、冒頭に山田会長からは、有朋会の謂れである「有朋自遠来、不亦楽乎」の漢詩についてお話をいただきました。また、130周年記念冊子の発行、芸術地域デザイン学部の独立、会費の変更等について説明され、有朋会は岐路に立っていることを実感しました。その後ゆっくり交流する時間をもちましたが、なかなかお会いできない先生方との語らいは、同じ志をもつ者として、縁をつないでいくことの大切さを強く感じました。

大ベテランの先生方のお話を聞いているとあっという間に時間は過ぎてしまいました。

次回は2年後ですが、その時は若い先生方にも数多く参加していただき、大先輩の方々の知恵と体験を次世代に引き継いでいきたいと決意した会となりました。

(神埼支部長 田中 裕子)



神埼支部総会風景

### 白 石 支 部

白石支部では、2月8日（土）に総会・懇親会を開催しました。本部から黒木正孝副会長、江島きよ子副会長にも参加していただきました。黒木副会長からは、有朋会の現状と今後の展望について話をいただきました。

また後半の講演会では、サガンドリームス、永井隆幸様から、サガン鳥栖のチーム作りを通して、前向きな思いを強く持つことの大切さについて教えていただきました。

黒木副会長、江島副会長に引き続きご参加いただいた懇親会では、退職、現職会員がそれぞれの思いを語り合い、親交を深めることができました。

今後も、有朋会の隆盛を図るために、総会・懇親会を中心に支部運営に邁進していきたいと考えています。

(白石支部長 桑原 智仁)



白石支部講演風景

## ◆◆ 130年記念誌配布状況報告 ◆◆

平成30年12月20日に「有朋会130年記念誌－創造と継承－」を発行しました。約2カ年に亘り資料の収集・発掘や編集作業等、多くの皆さまのご協力により無事に完成することができました。厚くお礼申し上げます。

平成31年3月中旬に、師範卒（1,400名）と県外会員（4,133名）に記念誌のご案内を発送し、記念誌の有無を照会させていただきました。回答は、420名でした。

その後、平成31年4月上旬に県内在住会員に記念誌を5,298冊、4月下旬に師範卒会員及び県外会員に346冊発送しました。また、資料提供者や佐賀大学関係、会員、県立・市立図書館等に620冊配布しました。現在までの記念誌配布合計数は、6,264冊です。（8,000冊印刷）まだ、残部があります。手元に届いていない会員の皆さまには、記念誌を贈呈いたしますので有朋会本部事務局まで連絡ください。

(Tel : 0952-23-1253)



記念誌表紙



慰問絵巻 (山口亮一作)



残された戦時下の記録

## ◆◆ 130年記念事業に伴う会計報告 (令和2年5月30日現在) ◆◆

項目	収入金額	支出金額	備考
百年記念基金積立から	7,000,000		
130年記念誌印刷費		3,722,976	8,000冊
振込手数料		864	
師範卒・県外会員案内送料		405,469	5,546通
案内状印刷・封入代		234,540	案内状、封筒、封入等
記念用ラベル発行・プログラム作成費		10,800	イーエムソフト開発
記念誌発送料		932,148	鏡文、封筒、封入、発送 5,644通
合計	7,000,000	5,306,797	

## ◆◆ 130周年記念総会・祝賀会回顧 (平成30年8月25日実施) ◆◆



130年記念祝賀会会場風景



祝歌：コーロ・カンフォーラ



万歳三唱

## 令和元年度 有朋会総会・懇親会

日時 令和元年8月31日(土)  
会場 ガーデンテラス佐賀(3Fサウス)

総会 13:30~14:10

- 1 開会
- 2 会長挨拶  
〔黙とう〕
- 3 会務概要報告
- 4 感謝状贈呈
- 5 喜寿記念品贈呈
- 6 古希祝詞贈呈
- 7 還暦祝詞贈呈
- 8 謝辞
- 9 閉会



山田会長あいさつ



YOSAKOI「佐賀大学嵐舞」

演舞(よさこい) 14:20~14:50

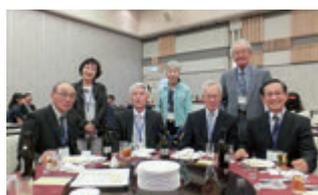
YOSAKOI  
「佐賀大学 嵐舞」

懇親会 15:00~17:00

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 来賓祝辞
- 4 来賓紹介
- 5 乾杯
- 6 開宴
- 7 万歳三唱
- 8 閉会



古希祝賀の皆さま



喜寿祝賀の皆さま

## 令和元年度 有朋会追悼会

日時 令和元年11月17日(日)  
会場 願正寺

- 1 開会
- 2 導師入場
- 3 一同合掌・礼拝
- 4 物故者の報告
- 5 三奉請
- 6 会長の追悼の辞
- 7 読経
- 8 遺族の焼香
- 9 会長の焼香
- 10 来賓の焼香
- 11 参列者の焼香
- 12 一同合掌・礼拝
- 13 導師退場
- 14 閉会



有朋会員死者碑(明治26年建立)



追悼会受付準備



願正寺本堂正面



山田会長の追悼の辞

## 教育学部・芸術地域デザイン学部と有朋会との意見交換会



令和元年8月7日(水)学部との意見交換会

- ・ 学部の現状報告
- ・ 学生の就職状況報告
- ・ 学生への有朋会からの就職支援
- ・ 採用試験結果報告等



令和2年1月8日(水)学部との意見交換会

## 令和2年度 有朋会本部・支部行事計画

月	日	曜	本 部 行 事	備 考
4	1	水	教職員異動新聞発表(異動による名簿更新)	※各支部で会員把握
	2	木	佐賀大学入学式(中止) 大学院オリエンテーション(16日に延期)	※代議員名簿締切4月24日
	3	金	佐賀大学学部オリエンテーション(15・16日に延期)	※コロナ感染予防のため
	7	火	第1回正副会長会(18:00~)	※採用試験支援延期
	18	土	第1回本部役員会(15:00~)(中止)	※コロナ感染予防のため
	24	金	有朋会支部役員名簿提出締め切り	
5	12	火	第2回(臨時)正副会長会(18:00~)	菱の実会館小会議室
	15	金	会報39号原稿集約〔3月27日支部原稿締切〕	
	27	水	会報39号第1回編集会議(2回校正)	会報部会
	30	土	第1回代議員会(15:00~)(中止)[書面会議]	※コロナ感染予防のため
6	1	月	会報発送者名簿確認	※サラトに確認
	10	水	会報39号第2回編集会議	会報部会
	15	月	県内現職会員数調査締切(各支部→本部事務局)	※各学校ごとの名簿集約
	17	水	平2卒世話役代表者の打ち合わせ(19:00~)(中止)	※コロナ感染予防のため
	24	水	各部会実施予備日(中止)	※コロナ感染予防のため
7	1	水	喜寿、古希、還暦、実行委員へ総会中止案内 本年度の物故者の確認依頼	会報に掲載 会員調査締切:退職含
	8	水	会報39号発行後、発送開始(各会員へ) 第3回 正副会長会(18:00~)	※サラトに確認 菱の実会館小会議室
	31	金	会費納入=月末締切	会費納入締切1次(振込)
8	5	水	学部意見交換会(学部課程代表)18:30(中止)	※コロナ感染予防のため
	29	土	総会・懇親会 ガーデンテラス佐賀ホテル&マリトピア(中止)	※コロナ感染予防のため
9	30	水	本年度追悼対象者報告第1次締切	会費納入締切2次(振込)
10	1	木	追悼会案内の発送	
	7	水	第4回正副会長会(18:00~)	菱の実会館小会議室
	12	月	本年度追悼対象者報告 最終締切	
	17	土	本部役員会(15:00~)菱の実会館多目的室	
11	14	土	佐大ホームカミングデー(未定) 願正寺との打合せおよび前日準備 事務局 佐賀県青春寮歌祭(13:00~)	対象:卒業生の全て ※コロナ感染予防のため
	15	日	追悼会(願正寺)9:30~10:30 有朋の碑改修記念式典11:30~12:00	参加依頼(各支部3名程度) 参加依頼(各支部3名程度)
		9	水	第5回正副会長会(18:00~)
1	6	水	学部意見交換会(学部課程就職担当)18:00多目的室	
2	20	土	第2回代議員会(15:00~)菱の実会館多目的室	未納会費の納入締切
3	24	水	佐賀大学卒業式(10:00~)・祝賀会(12:30~)	教育学部 ・学校教育学研究科
	30	火	有朋会監査(10:00~)	菱の実会館小会議室

## 令和2年度 有朋会(佐賀大学教育学部・文化教育学部) 役員一覧

	役 職	氏 名	卒業年 課 程	大 院 修 了
	顧 問	宮尾 正隆	S36.美	
1	会 長	山田 直行	S47.美	
2	副 会 長	山口久美子	S41.小	
3	〃	江島きよ子	S52.小	
4	〃	緒方 俊昭	S52.美	
5	〃	黒木 正孝	S53.小	
6	〃	梶島陽一郎	S56.中	
7	幹 事	古賀 資之	S34.小	
8	幹事(大学)	岡 陽子	S54.中	
9	〃	中村 隆敏	S61.美	H15.院
10	〃	徳安 和博	H02.美	
11	〃	堤 公一	H06.小	H08.院
12	〃	林 裕子	H19.学	

	役 職	氏 名	卒業年 課 程	大 院 修 了
13	幹事(大学)	鳥谷さやか	H20.美	H22.院
14	幹事(現職)	内田 真弓	S58.小	
15	〃	砂後 典之	S59.小	H08.院
16	幹 事	三宅 敏宏	H07.総文	
17	〃	小石 克	H08.総文	
18	幹事(本庄小)	富吉 猛	S60.小	
19	幹事(城西中)	未 定		
20	幹事(附属小)	宮原 正行	S58.小	
21	幹事(附属中)	五反田 進	S60.小	
22	幹事(附属特)	山北 史隆	H07.中	H09.院
23	監 査	末次 利隆	S51.中	
24	〃	宮崎 祐治	S54.小	
25	事務局長	竹下 敬教	S51.中	

## 令和元年度決算・令和2年度予算

### 【歳入の部】

費目	令和元年度 執行額	備考	令和2年度 予算額	備考
会費	3,912,500	3,010名【※3,000人目標】	5,200,000	2,000円×2,600名
準会員費	2,431,000	入学時10年会費（教育+芸術）221名納入	1,210,000	入学時10年会費（教育110名）芸・地・テ独立
繰越金	170,712	30年度繰越金	745,644	令和元年度繰越金
利息	134,468	利息等（寄附、メール代）	10	利息等
合計	<b>6,648,680</b>		<b>7,155,654</b>	

### 【歳出の部】

費目	令和元年度 執行額	備考	令和2年度 予算額	備考	
事業費	総会 追悼会費	615,285	喜寿記念品、祝詞等 総会・祝賀会参加者110名	700,000	祝詞、総会・祝賀会補助等
	お施餓鬼費	27,292	御仏前+供花	30,000	御仏前+供花
	慶弔慰問費	240,000	弔慰金、現金書留含む	300,000	弔慰金、現金書留含む
	会員名簿費	36,018	各支部名簿作成と配布	50,000	各支部名簿作成と配布
	会報費	326,600	有朋38号発行	330,000	有朋39号発行
	支部助成金	270,000	各支部助成金、講演補助等	300,000	各支部助成金、講演補助等
	渉外費	100,000	会長活動費、渉外活動費	100,000	会長活動費、渉外活動費
	新入会員歓迎費	130,800	卒業記念品（祝詞・タオル）	60,000	卒業記念品（祝詞・タオル）150名分
	支援活動費	201,800	就職支援講師謝礼等	250,000	就職支援講師謝礼等
	新規事業	0	130周年事業準備等	200,000	130周年事業（有朋の碑落成）等
小計	<b>1,947,795</b>		<b>2,320,000</b>		
会議費	支部長合同会議費	130,000	支部役員、代議員の招聘促進	140,000	支部役員、代議員の招聘促進
	役員会費	123,926	正副会、本部役員会等	140,000	正副会、本部役員会等
	監査費	10,000	監査費	10,000	監査費
	諸費	278,428	全学地区会、各種祝儀等	320,000	全学地区会、各種祝儀等
	旅費	255,260	全学同窓会旅費、支部総会等旅費	400,000	全学同窓会旅費、支部総会等旅費
	学部事務打合せ費	120,478	8月と1月に学部意見交換会	140,000	8月に学部意見交換会
	小計	<b>918,092</b>		<b>1,150,000</b>	
需用費	備品費	3,300	職員録等	5,000	職員録等
	消耗品費	29,652	事務用品等	40,000	事務用品等
	通信費	195,077	郵送料の値上げ、郵送量の増加	200,000	郵送料の値上げ、郵送量の増加
	振り込み手数料	0		1,000	
	印刷費	74,120	事務局印刷費（コピー）	80,000	事務局印刷費（コピー）
	小計	<b>302,149</b>		<b>326,000</b>	
事務費	事務局活動費	1,560,000	（有朋会10万、芸術3万）×12月	1,320,000	有朋会11万×12月
	小計	<b>1,560,000</b>		<b>1,320,000</b>	
10年会費備蓄	<b>1,105,000</b>	入学時10年会費（教育+芸術）221名納入	<b>550,000</b>	5,000円×教育110名	
退職記念積立	<b>70,000</b>		<b>70,000</b>		
有朋会基金積立			<b>1,000,000</b>	有朋会基金積立（令和2年度～）	
予備費	<b>0</b>		<b>419,654</b>		
合計	<b>5,903,036</b>		<b>7,155,654</b>		
令和元年度残高	<b>745,644</b>				

### 令和元年度2月代議員会の様子



山田会長挨拶



真剣な表情の参加者

年度	会費納入者数(人)	増減	備考
平成3年度	5,012		以前は不明
平成5年度	5,316	304	
平成10年度	4,584	-732	
平成13年度	4,321	-263	文教卒業生
平成15年度	3,880	-441	
平成17年度	4,090	210	喜寿以上も徴収
平成20年度	3,771	-319	
平成22年度	3,182	-589	師範卒無料
平成25年度	2,831	-351	
平成30年度	2,756	-75	130年記念誌発行
令和元年度	3,010	254	新学部生卒業

# コロナ禍に対応しての連絡

新年度早々から全世界で新型コロナウイルス感染が蔓延し、危機的状況が続いています。わが国でも、全国に緊急事態宣言が発出されるなど感染抑止、終息へ向けて官民挙げて懸命の努力がなされています。政府は5月25日夜、新型コロナウイルス特別措置法に基づく緊急事態宣言を全面解除しましたが、今後も感染拡大防止の取り組みが大切です。1日も早い終息を願いたいものです。

そこで、有朋会本部でも5月12日（火）に臨時正副会長会を開き、コロナ禍の中、皆さまの安全確保のため、5月30日（土）の代議員会と8月29日（土）の総会・懇親会、8月5日（水）の学部との意見交換会を中止することにしました。総会時の長寿祝いは、来年度に実施の予定です。

## 追悼会

**期日** 令和2年11月15日（日）  
 受付：9：00～9：30  
 追悼会：9：30～10：30

**会場** 願正寺  
 佐賀市呉服元町6-5 TEL：0952-23-4001

**日程**  
 ○役員打ち合わせ：8：30～  
 ○受付：9：00～  
 ○追悼会：9：30～10：30

※明治24年有朋会員による「総集會」が発足。明治26年当時の全会員128名の浄財で願正寺の一隅に石碑が建立され、全会員参加による追悼会が開催されて以来、本会最大の年行事として継承されてきました。

## 有朋の碑改修記念式典

**期日** 令和2年11月15日（日）  
 受付：11：00～11：30  
 記念式典：11：30～12：00

**会場** 県立美術館北側「有朋の碑」広場  
 佐賀市城内1丁目15番23号

※有朋会創設80周年記念碑の改修工事を9月から始めます。11月7日完工予定です。50年振りに新しくなります。



有朋の碑 正面

## 会費納入のお願い

※会費納入は、下記の要領でお願いします。

- 令和2年度から本部年会費は、2,000円です。
- 特別会員（師範学校卒業）の方は、会費免除です。

### 【1】佐賀県内の学校勤務の会員は？

本部年会費と支部費を学校単位で徴収し、支部事務局へ納入ください。  
 支部費は、それぞれの支部で違います。

### 【2】佐賀県内の学校勤務以外の会員及び退職会員は？

別添振込用紙で、本部年会費を郵便局口座に納入ください。  
 支部費は、それぞれの支部で違います。（支部からの連絡あり）

### 【3】佐賀県外会員の方は？

別添振込用紙で、本部年会費を郵便局口座に納入ください。  
 福岡県は、支部費を含め3,000円です。

### 【4】卒業後6年経過の会員は？〈入学時10年会費納入者〉

佐賀県内在住者は、上記【1】又は【2】又は【3】の方法で納入ください。

### 【5】別添振込用紙で納入される場合は？

「ゆうちょ銀行」や「郵便局ATM」で。

- ・口座番号 0-1730-8-35826
- ・加入者名 「有朋会」
- ・振込取扱票は「赤」の用紙をお使いください。
- ・できるだけ早期に納入ください。

有朋会本部年会費の変更につきましては、2年前から代議員会で検討を続けてきましたが、令和2年2月の代議員会で、値上げ案が了承されました。出費多難の折ですが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

有朋 発行日 令和2年7月1日（水）  
 第39号 発行者 有朋会会長 山田 直行  
 編集者 編集部 長 江島 きよ子  
 事務局 事務局 長 竹下 敬教

住所 〒840-8502 佐賀市本庄町本庄1  
 佐賀大学菱の実会館 TEL 0952-23-1253  
 E-mail dousoukai@sadai.jp  
 HP http://sadai.jp/alumni/